

## 青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課

総合学校教育センター

青森県教育委員会は、平成24年度青森県立高等学校入学者選抜後期選抜学力検査を3月14日(水)に実施し、2,194人が受検した。

学力検査の実施教科は、国語、数学、英語で、検査時間は各教科とも40分、配点は各教科とも100点満点である。前期選抜とは異なり、国語、英語では放送による検査問題は実施していない。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表(後期)に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語は6.4点、数学は7.4点上回り、英語は6.1点下回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「平成24年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表(後期)

得点区分	国語		数学		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%
100	0	0.0	4	0.2	20	0.9
90～99	55	2.5	48	2.2	226	10.3
80～89	327	14.9	229	10.4	262	11.9
70～79	417	19.0	438	20.0	218	9.9
60～69	428	19.5	411	18.7	227	10.3
50～59	353	16.1	329	15.0	241	11.0
40～49	269	12.3	222	10.1	215	9.8
30～39	173	7.9	177	8.1	248	11.3
20～29	102	4.6	147	6.7	242	11.0
10～19	56	2.6	118	5.4	231	10.5
0～9	14	0.6	71	3.2	64	2.9
0(再掲)	1	0.0	6	0.3	2	0.1
受検者数	2,194	100.0	2,194	100.0	2,194	100.0
平均点	60.2	/	56.0	/	53.5	/
標準偏差	19.2		22.1		27.0	
最高点	97		100		100	
最低点	0		0		0	
前年度平均点	53.8		48.6		59.6	

\*得点一覧表の各教科の値(%)は、全受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

## 国 語（後期）

①は、漢字の問題である。(1)の読字は、ウ「知己」の正答率が低く、「己」を「こ」と読み違えた誤答が多かった。書字は、カ「奮起」、ク「券売」の正答率が比較的 low、カについては、「起」を「気」と書く誤答が多かった。クでは、「券」の「刀」を「力」と書いている誤答が目立った。(2)の同音異義語を選択する問題は、全体的に正答率が高い中で、イ「威儀」の正答率が比較的 low かった。

②は、電子メールと手紙という異なる表現形式の通信文を書く言語活動の場面を想定し、言語に関する基礎的な知識・技能と、それを活用する力をみる問題である。(1)は、熟語の成り立ちについての問題であるが、正答率は約 5 割で、「添」の意味が分からないために、同じ成り立ちのものを選ばなかったものと思われる。(2)は、電子メールから読み取った情報を要約して書く問題である。「方言を使って」、「小学校の思い出を表現した」という二つの情報をまとめる必要があるが、一方しか書けなかったために減点されているものが見られた。文章をよく読んで、必要な情報を取り出す力が求められる。(3)は、文の組み立てから考えて適切でない一文節を探し、適切な表現に直す問題、(4)は、文の成分同士の関係を判断する問題である。(3)、(4)ともに正答率は約 6 割で、知識の定着がうかがえた。

③は、伊集院静（いじゅういんしずか）の『あの子のカーネーション』からの出題である。(1)、(2)の、文脈における語句の意味をとらえる問題の正答率は高かった。(3)は、主人公の気持ちを、文章から読み取る問題であるが、「男の仕事をしているんだと喜ぶ気持ち」というような誤答が多かった。「初めのうちは」、「次第に」という語句に注意して、どの時点での「気持ち」を書くことが求められているのかを判断することができなかったものと思われる。(4)は、主語に合わせて文を書きかえる問題であるが、書き改めたことによって文意が変わってしまった誤答が見られた。文を書き改める際は、書き改めた文を読み直し、もとの文と意味が同じであるかどうかを確認することが大切である。(6)は、薪割りの経験を通して筆者が考えたことについて読み取る問題であるが、比較的 正答率は高かった。(7)は、筆者のものの見方や考え方について、文章の内容を読み取って書く問題である。傍線部を含む段落からの抜き出しのみを書いた誤答や無答が多かった。読み取ったことを考え、自分の言葉で書き表す学習活動が大切である。

④は、稲垣栄洋（いながきひでひろ）の『身近な雑草のゆかいな生き方』からの出題である。(1)の、動詞の活用の種類を見分ける問題は、正答率が 4 割を下回った。平成 15 年度の同様の問題でも正答率が約 4 割であったことから、この内容に関する基礎的な知識のより一層の定着が望まれる。(2)は、文章全体の展開を考えて、ある文が入る適切な箇所を判断する問題である。正答率は約 7 割と高く、段落相互の内容をよくとらえられているものと思われる。(4)は、正答率が 2 割を下回った。文章の論理の展開に即して筆者の主張をとらえる問題であるが、情報の読み取りが不足しているために、減点されているものが多かった。条件に即して必要な情報を読み取ってまとめる力が求められる。(5)の文脈をとらえて空欄に入る適切な語を書く問題の正答率は約 5 割、(6)の要旨を選ぶ問題の正答率は 5 割を下回った。(7)は、二つの文章を比較し、表現上の特徴について考える問題であるが、ア、イともに正答率は約 3 割と低かった。アは、二つの文章をよく読み比べなくてはならないが、一方の文章にしか注目していないと思われる誤答が多く、イは、擬人法を用いた部分を文章中から探すことが難しかったものと思われる。

⑤は、『論語』からの出題である。(1)の書き下し文を書く基本的な問題は、正答率が約8割と高かった。(2)は、漢文と書き下し文を比較して、指示語の内容を読み取る問題であるが、指示語が示す部分を誤って判断したと思われる誤答が見られた。(3)は、現代語訳を参考にして適切なものを選ぶ問題で、正答率は約6割であった。

国語では、前期と同様、文章の展開に即して内容を理解する力や条件に従って適切に表現する力に加え、文章の構成や表現の仕方にも着目して内容をとらえ、自分の考えを適切に表現する力を育成することが望まれる。

### 問題別正答率 国 語 (後期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)							
①	1	読	ア 1	常用漢字を読む。	穏健	60.2	(1)	4	文学的文章	文脈の中における語句の意味をとらえる。	88.5			
			イ 1	〃	精進	45.6				(2)	文脈の中における語句の意味をとらえる。	77.7		
			ウ 1	〃	知己	17.4				(3)	文章の展開に即して内容をとらえて書く。	50.1		
			エ 1	〃	携えて	66.0				(4)	文の組み立てを理解する。	56.7		
			オ 1	〃	伴って	61.1				(5)	文章の展開に即して内容をとらえる。	95.1		
	2	書	カ 1	学年別漢字配当表の漢字を書く。	奮起	42.1				(6)	4	文章に表れているものの方や考え方を理解する。	64.7	
			キ 1	〃	結束	66.4				(7)	8	文章の展開に即して主題を考えて書く。	13.7	
			ク 1	〃	券売	47.7		(1)	4	説明的文章	単語の活用を理解する。	35.1		
			ケ 1	〃	設けて	71.1					(2)	4	文章の展開をとらえる。	73.2
			コ 1	〃	筋	68.4					(3)	I 4	文章の展開に即して内容をとらえる。	54.4
	(2)	同音異義語	ア 1	同音異義語を選択する。	均衡	91.8		(4)	II 4	〃	70.6			
			イ 1	〃	威儀	41.5		(4)	4	文章の展開に即して内容をとらえて書く。	16.4			
			ウ 1	〃	裁つ	70.4		(5)	A 2	文章の展開に即して内容をとらえる。	53.7			
			エ 1	〃	不朽	72.8		(5)	B 2	〃	52.6			
オ 1			〃	態勢	89.7	(6)	4	文章の展開に即して要旨をとらえる。	44.2					
②	3	言語事項	(1)	熟語の成り立ちを見分ける。		50.9	(7)	ア 2	表現の仕方や文章の特徴に注意して、内容を理解する。	35.6				
			(2)	文章から必要な情報をとらえて書く。		50.9	(1)	3	古典	漢文のきまりに従って読む。	78.2			
			(3)	文の組み立てを理解する。		59.1				(2)	3	文章の展開に即して内容をとらえる。	58.2	
			(4)	文の成分同士の関係を理解する。		60.6				(3)	3	文章の展開に即して主題を考える。	62.4	

## 数 学（後期）

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)は全体的に正答率が高く、知識・技能の定着がうかがえた。エは、 $-(5x - y)$ の展開を誤ったと思われる誤答が、オは、 $\frac{5}{\sqrt{5}} = \sqrt{5}$  や  $\sqrt{20} = 2\sqrt{5}$  の計算を間違えたと思われる誤答が見受けられた。(2)の因数分解は、二次方程式と取り違えたと思われる「 $x = 3, 7$ 」という誤答が目立った。(3)は、負の数の係数で両辺を割るところを正の数で割ってしまった誤答が目立った。(5)は、 $x$ が正の数の変域において増加すれば  $y$ は減少すると判断できず、 $y$ の変域を  $9 \leq y \leq 3$ とした誤答が目立った。(6)は、誤答として「2」、「4」が目立った。 $\sqrt{a^2} = a$ についての理解が不十分であり、素因数分解を利用することができなかつたものと思われる。(7)は、 $\triangle ADG$ と $\triangle BDE$ を合同ととらえ、 $\angle BED = 78^\circ$ と考へたと思われる「 $12^\circ$ 」が多かつた。(8)は、「3」、「9」のように、相似な2つの三角形を適切に対応させられなかつたと思われる誤答が目立った。

②は、見通しを立てて思考・判断し、数学的に処理する力を問う問題である。(1)アの正答率は約7割であつた。起こりうるすべての場合の数と袋P、Qから取り出した玉にかかれた数字の和が奇数となる場合の数を求められなかつたと思われる誤答が見られた。イは、場合の数の数え間違いや約分をしなかつたことによる誤答が目立った。(2)では、平行線と比の性質を正しく利用することができていない誤答が目立った。(3)アの正答率は約9割と高かつた。イは、棒が5本ずつ増えている規則性を見いだしてはいるものの、単に  $n$ 番目の数に5を加えてしまつた「 $n + 5$ 」という誤答が多く見られた。(4)アは正答率が約7割と高かつた。誤答としては「3」、「4」、「1」のように文字式で表現していないものが目立った。イは正答率が約1割と低く、誤答は多岐にわたつた。線分や体積を文字式で表現する力が不十分であり、三角すいの体積の公式も定着していないものと思われる。ウは正答率が約2割と低く、約4割が無答であり、誤答としては二次方程式を正しく解けていないものが目立った。

③は、関数  $y = ax^2$ と一次関数のグラフや式を把握し、図形の性質を利用して関数的な見方や考え方で解決する力をみる問題である。(1)の正答率は約7割と高かつた。(2)は、直線の傾きを正しく求めることができていない誤答が多かつたが、正答率は約6割であつた。(3)の正答率は非常に低く約4割が無答であつた。点Cの  $x$ 座標を文字を用いて表し、数式を立てて処理することができなかつたものと思われる。

④(1)は、台形の高さを求めるために補助線を引き、図形の性質を利用して処理する力をみる問題であるが、約5割が無答であつた。 $45^\circ$ の角をもつ直角三角形と $30^\circ$ の角をもつ直角三角形を見だし、それぞれについて三辺の長さの比の性質を用いることができなかつたものと思われる。(2)アは正答率が低く、直角三角形の合同条件を用いずに、三角形の合同条件で証明しようとした誤答が目立った。イは、移行措置の内容である「二次方程式の解の公式」を利用して解く問題である。正答率は低く約3割が無答であつた。 $BE = x$ とおき、三平方の定理を活用して二次方程式を立式して解決する問題であるが、二次方程式の解の公式を正しく用いることができていない誤答が目立った。

数学では、前期と同様、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、数や式の形式的な処理だけではなく、その意味をしっかりと理解した上で数理的にとらえ、筋道を立てて表現する力、また、それらを総合的に活用する力の育成が求められる。

### 問題別正答率 数 学 (後期)

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	
1	(1)	ア 3	正負の整数の計算 (加減)	98.5
		イ 3	正負の整数の計算 (乗法)	94.7
		ウ 4	正負の整数の計算 (累乗)	90.6
		エ 4	多項式の計算	86.7
		オ 4	平方根の計算	78.2
	(2)	4	因数分解	79.5
	(3)	4	等式変形	68.4
	(4)	4	連立方程式	83.8
(5)	4	数量 反比例	71.4	
(6)	4	数式 平方根の意味	58.1	
(7)	4	図形 三角形の内角の和	50.9	
(8)	4	図形 三角形の相似	54.1	

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
2	(1)	ア 3	確率	65.3	
		イ 4	数量 確率	38.4	
	(2)	4	図形 平行線と比	59.8	
	(3)	ア 3	数式 棒の本数を数える	88.4	
		イ 4	数式 規則性を見つける	45.4	
	(4)	ア 3	数式 数量を文字式で表す	73.1	
		イ 4	数式 数量を文字式で表す	12.5	
	3	ウ 4	図形 二次方程式の利用	19.6	
		(1)	3	関数 $y=ax^2$ のグラフ	73.5
		(2)	4	数量 直線の式	59.9
(3)	5	関数のグラフと図形	1.8		
4	(1)	4	図形 三平方の定理	16.2	
	(2)	4	" 三角形の合同の証明	14.3	
	イ 5	数式 二次方程式の利用・三平方の定理	1.0		

## 英 語（後期）

①は、英文を読んで空欄に入る最も適切な英語を書く問題である。正答率は比較的高かったが、(2)、(4)については綴りの誤りによる誤答が見られた。

②は、英作文の問題である。(1)は、対話が成立するように提示された語を並べかえるものである。イ、ウの正答率が高かったことから、「like to...」、「take care of」の用法は定着していると思われる。エは、「Please quiet when someone is be speaking.」のように、be 動詞を用いた命令文についての定着が不十分であると思われる誤答、オは、「Is this you are...?」 や 「Is this are you...?」 のように修飾される語句である「CD」と、修飾する語句の関係がつかめなかったと思われる誤答が多く、いずれも正答率は約2割であった。(2)は、日本語を英語になおす問題である。1は、「visit to」のような動詞の用法、2は、「have + 過去分詞」の用法の誤りによる減点が多く、正答率は低かった。

③は、海外に留学している生徒と滞在先のブラウンさんの二人の対話を完成させる問題である。対話の展開を正確に読み取った上で適切な英文を書く力が求められる(1)アでは、後の文章の「take the green train」を受けて、どの疑問詞を使えばよいのかわからなかったための無答や「What do you go?」のように「what」を使った誤答が見受けられた。イ、ウでは、疑問詞の後の主語の書き忘れや動詞の重複などによる減点が多く、正答率は低かった。対話の意味が通るように適切な文を選ぶ(2)の正答率が比較的高いことから、対話の流れはある程度把握できていると思われる。

④は、2人の生徒のある日の出来事を題材とした問題である。本文の内容と合う日本語を選ぶ(1)は、本文の内容を正確にとらえることができず、三つすべてを正しく答えることができなかつた誤答が多かった。(2)2の英問英答の問題は、正答率が比較的高かったが、1では、動詞の時制を誤ったための減点が多く、3では、本文の「She saw an old man who was carrying a big bag.」を踏まえ、質問文に合わせた形で答えることができなかつたために減点されているものが目立った。

⑤は、「走ることが好きなトムがボランティアの存在を知って、走ることに對しての考え方をかえた」という内容の長文を読んで答える問題である。(1)は、与えられた書き出しに続けて、本文の内容と合うように英文を完成させる問題であり、(2)は、前後の話の流れと合うように適切な語句を入れる問題である。どちらも正答率が高かったことから、本文の内容はある程度とらえられていると思われる。本文の内容と合うように、適切な語を選んで要約文を完成させる(3)アは、「her favorite race」を「the race she liked」と言い換えられるかどうかをみる問題、イは、物語の中心となる部分を読み取る力をみる問題であるが、いずれも誤答は多岐にわたった。物語の内容を正確に深く読み取る力は十分ではないと思われる。下線部の内容を日本語で書く(4)は、「リサが好きなレース」や「ボランティア」のような具体的な説明がされていないための減点が多く、無答も見受けられた。

英語では、前期と同様、英文の内容の事実関係や順序を整理して把握し、大切な部分を正確に理解する力や、状況に合わせて英語で適切に表現する力が大切である。

問題別正答率 英語（後期）

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)		
1	(1)	ライディング. 対話が成立するように、空所に入る適切な語を書く。	2	86.1	4	(1)	ライディング. 本文の内容に合った日本語を選ぶ。	9	46.1
	(2)		2	46.4		(2)	1	4	38.5
	(3)		2	60.7			2	4	56.1
	(4)		2	35.8			3	4	27.7
	(5)		2	60.7		5	(1)	ア	3
2	ライディング. 対話が成立するように、語を並べかえる。	ア	3	45.7	イ			3	54.0
		イ	3	82.3	ウ			3	60.7
		ウ	3	62.6	エ		3	51.0	
		エ	3	22.9	(2)		3	73.7	
		オ	3	17.0	(3)	ア	3	43.7	
(2)	1	4	38.8	イ		3	33.6		
	2	4	18.2	(4)		4	34.0		
3	ライディング. 対話を読み、空所に入る適切な表現を英語で書く。	ア	4	19.2	ライディング. 本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	(1)	ライディング. 本文の内容と合うように、与えられた書き出しに続く適切なものを選ぶ。	3	51.0
		イ	4	23.6					
		ウ	4	29.0					
		A	3	52.8					
		B	3	46.6					
(2)	ライディング. 対話を読み、空所に入る適切なものを選ぶ。	C	3	48.6	空所に入る適切な語を選ぶ。	3	73.7		
		日本語を英文に直す。	1	4	38.8	英文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	3	43.7	
		2	4	18.2	本文の内容を読み取り、具体的に日本語で説明をする。	4	34.0		